

**(AL 関連の実践)【小学校/社会】話し合いで考えを深めることを目指した授業**

青野祐子 (〔京都府〕向日市立向陽小学校)

溝上のコメントは最後にあります

**対象授業**

- ・ **学習単元**：『水産業のさかんな地域』（「新編 新しい社会 5上」東京書籍）
- ・ **児童**：5年4組（28名）
- ・ **授業期間**：7月3日（火）～7月17日（火）全7時間（本稿はその中の1時間目）

**第1節 授業の目標****(1) 学習内容についての目標**

本単元「水産業のさかんな地域」では、身近な食料であり自然環境を生かして国民の食生活を支えている水産業について学習する。

自然条件を生かした漁業のさかんな地域を事例として取り上げ、それぞれの生産活動を様々なグラフや図、写真資料を通して調べ、水産業に携わる人々の工夫や努力に気付かせたい。また、世界有数の水産物消費国である日本にとって、水産業はなくてはならない産業である。魚を資源としてとらえ、「とる漁業」だけでなく「つくり育てる漁業」を、守り育てていくものであることにも気付かせたい。

その導入としての本時は、経験や資料をもとに、水産業が盛んである日本の自然条件に気付き、水産業について学習しようとする意欲を持たせることを目標とする。


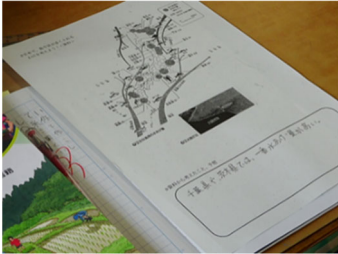

**(2) アクティブラーニングの視点で**

どの教科でも、ペアトークやグループトーク、学び合いは日常的に行っているもので、意見を交換したり、話し合ったりすることには意欲的な児童が多い。今年度は、主に理科や社会科の学習でジグソー法を取り入れてきた。また、社会科では、学習単元のまとめとして、グループでの新聞づくりに取り組むなど、児童が主体的に学び、自分の考えや意見を伝え合い、そして更に自分の考えを深めていく学習の流れを意識して、授業づくりをしている。

本授業では、全員が同じ資料について考えることで、様々な考えが出て、多くの意見を聞きたいと思わせることができるのではないかと考え、あえて、資料を1つに絞り、できるだけ教師が出すヒントを少なくして、児童自身がこれまで学習してきたことや、これまでの体験の中で得た知識を総動員させて、互いの関わりの中で考えさせることをねらいとした。

**第2節 授業の流れ（45分）**

	学習活動	主な発問・指示	指導の留意点
導入	普段の食生活を想起 (挙手で意思表示)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「昨日で米作りの学習が終わったんだけど、昨日の夜ごはん、お米食べた人？」</li> <li>・ 「じゃあおかずは肉だった？魚だった？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前単元とのつながりを持たせる。</li> <li>・ 全員が自分のこととして考えられるようにする。</li> <li>・ 児童の実感を確かめさせる。 (若干、肉が多い)</li> </ul>

	<p>グラフの読み取り (P P資料)</p> <p>めあての確認</p>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>「グラフを見よう。」</li> <li>①主な国の1人1年当たりの魚と貝の消費量</li> <li>②都道府県別の漁業生産額の割合</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>「日本で、魚や貝が多くとれるわけを考えよう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本は世界有数の魚介類消費国であることに気付かせる。</li> <li>漁業生産額の多さに気付かせる。</li> </ul>
<p>展開1</p>	<p>日本で、魚が多くとれるわけを予想 (P P資料)</p> <p>資料の読み取り、考察 (A 4ワークシート1枚)</p> <p>ペアでの交流</p> <p>整理(個別)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「まずはノーヒントで考えて、ノートに書いてみよう。」</li> <li>「周りが海ばかりのオーストラリアと比べるとどうかな。」</li> <li>「資料から分かることをもとに、もう一度、日本で魚が多くとれるわけを考えよう。」</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>「自由に動き回ってペアを見つけて、考えたことを友達と交流しよう。」</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の席で、メモを増やそう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の発表から、周りが海ばかりであるという日本の国土の特色を確認させる。</li> <li>海が多いことだけではない日本の海の特色があることに気付かせる。</li> <li>大陸棚について知らせる。</li> <li>○の大きさが、主な漁港の水揚げ量の大きさであることを確認させる。</li> <li>ノートは閉じて、考えたことを資料のメモ欄にメモさせるようにする。</li> <li>本時の流れを示し、後で交流をしながら考えを深めていくことを伝える。</li> <li>ちがう考えの児童を見つけてメモを増やせるようにする。</li> <li>書いていない児童は、考えを話したり友達から考えを聞いたりして、何とか書けるようにさせる。</li> <li>鉛筆は持たせず、話すことに専念するようにさせる。</li> <li>3人以上の相手と交流するようにさせる。</li> <li>ここで全員、1つはメモがあるようにさせる。</li> </ul>
<p>展開2</p>	<p>自由グループでの話し合い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「3人以上のグループを作り、資料から考えられることを話し合おう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ話していない児童とも話すようにさせる。</li> <li>1人の人を作らないように声を掛ける。</li> </ul>